

「全鍍連」 2023年 12月号 理事長のよこがお

静岡県鍍金工業組合 理事長 古林 克匡

(株)日広鍍金工業所 代表取締役社長)

「家康公が愛した駿府ってどんな所？」



この度、静岡県鍍金工業組合の理事長を仰せつかりました、古林克匡と申します。

前理事長の山田様におかれましては、長きにわたり組合を支えて頂き、大変感謝しております。

今後は、微力ながら私なりに組合の発展の為、精一杯務めさせていただきますので、宜しくお願い致します。

さて、今回は NHK の大河ドラマ「どうする家康」の放映も重なり、とても良い機会を頂きましたので、私が生まれ育った静岡市と徳川家康の繋がりをご紹介させて頂きたいと思っております。おっと、その前に静岡市を簡単に紹介しますね。

静岡市は本州の真ん中に位置し、富士山を間近に自然豊かで四季折々の景観がとても素晴らしい場所です。山と海に囲まれた温暖な気候で、おいしい食べ物にも恵まれた住みやすい街です。

人口約 68 万人、2005 年に政令都市に。世界遺産に指定された三保の松原、駿府城跡、清水港、浅間神社、国宝に指定された久能山東照宮、日本夜景遺産に認定された日本平、登呂遺跡、またイベントでは大道芸ワールドカップ in 静岡、ホビーショーなど多くの観光客に訪れていただいております。が、大多数の各県の皆様は「静岡」と聞いても「静岡県」と「静岡市」が混同されるようです。「お茶」や「富士山」という回答は得られても、それはどちらも「静岡県」全体に対して持たれているイメージでしかなく、「静岡市といわれてもよく知らない」という方が大半です。日本の大動脈である東海道が走る静岡市ではありますが、新幹線「のぞみ号」は全部通過します。その為よく通過県と揶揄されます。

そこで静岡市をより知って頂き、また徳川家康との繋がりをお伝えする事により「静岡市」を認知し、興味を持って頂ければ幸いです。

それでは、はじめはじめ…

徳川家康は駿府（静岡市）に人質として 11 年間（8 才～19 才）、浜松（浜松市）に 16 年間（29 才～45 才）、そして駿府に戻り 4 年間（45 才～49 才）、最後は駿府で 9 年間（66 才～75 才）を過ごします。駿府には計 24 年間も過ごされました。浜松の 16 年間も含めると合計 40 年もの間、静岡県で過ごした事になります。ちなみに江戸（東京）で天下を取って 17 年間（50 才～66 才）を過ごされています。1603 年慶長 8 年に家

康は征夷大將軍に就任し江戸幕府開府。しかしその2年後、將軍職をあっさり退き駿府（静岡市）へ。

晩年の家康が駿府に来て最初に取り掛かったのは駿府城の再構築です。

以前からある駿府城を惜しみなく取り壊しました。通常の城は天守と天守台が一体なのに対し、新生駿府城は日本一巨大な天守台（江戸城より大きい）で、がっしりと天守を守る安定感抜群の構造で作りました。日本一の城を完成させたのです。

そしてそのお城を作ると同時に城下町も整備し、武家屋敷町、職人町、寺町など全部で96町に整えられました。この当時、江戸の人口が14万～15万人ですが、駿府には10万人と多くの人がありました。

このような事から駿府への力の入れようや、思いの強さが感じられます。

駿府城の発掘調査は今でも続いており、見学ができます。

また城下町も大きいだけでなく特別な城下町として機能していました。そのひとつに銀座町という町に金貨の鑄造所があり金貨を製造していました。こんなとても重要な機関を江戸ではなく駿府にです。現在その場所には銀座稲荷神社があり、参拝するとお金に恵まれるといういわれがあります。

また駿府には銀座もありました。銀座も銀座もあるなんて、日本の中心のような機能を持っていたというのは凄い事です。栄に栄えた駿府でしたが、晩年の家康は駿府へ来て9年後に亡くなってしまいます。家康は亡くなる二週間ぐらい前に駿府城で遺言を遺しています。「自分が亡くなったら久能山に西を向けて埋葬してくれ。葬式は江戸の増上寺でやれ。位牌は岡崎の大樹寺に立てろ。一年経ったら日光に小さな神社を建てて祀れ。」と言われたそうです。家康公のご遺骸は蹲踞（あぐらをかいたような状態）で上体を起こして西を向いています。久能山のある位置というのは、御前崎の方から久能山、富士山、日光が一直線になっています。家康公が向く西は一直線で岡崎を通って京都の方に行きます。要するに西の方を睨んでおこうという事です。

風水的にみてもこの久能山はとても重要な位置にあり、久能山から北東（鬼門）に位置する富士山が鬼門を防ぎ、南西（裏鬼門）に位置する御前崎が魔除けをしてくれるという場所です。御前崎はただの岬だから魔除けにならないのではと思われるかもしれませんが、この御前崎から真西へ直線を引くと、まずは伊勢神宮があり、さらに西へ行くと奈良県桜井市の日本で最も古い神社、大神神社の三輪山があり、さらに西へ行くと日本の国土を作ってくれた神様を祀っている伊弉諾神宮があります。またさらに西へ真っすぐ行くと対馬の海神神社もこの線上にあります。ですからこれら重要拠点の場所から見て、日が昇る場所が駿河湾の西端、御前崎なのです。御前崎の地名の由来については定かではありませんが「日本の重要な神々の御前であるぞ」という意味や、久能山の「御前」でもあることから「御前崎」となったようです。この事から御前崎が特別な地であることは間違い無いのかなと考えます。

さて、現在の久能山東照宮は我々も気軽に参拝できますが、江戸時代には一般人は入山できなかったようです。つまり大名でないと上まで上がってこられなかったと。山の中腹には門衛所があり、24時間与力と同心（江戸時代警備を担当した武士）が三交代でずっと警備をしていたという事です。しかも大名が来た際には楼門の下あたりで履物を脱いで素足で上がっていたそうです。将軍家にとって特別な人しか参拝できない神聖な場所だったといえます。固く閉ざされた久能山東照宮でしたが、一般公開されたのは昭和40年（1965年）からでした。神聖な場所ともいえるこの地を是非一度お参りしてみたいかがでしょうか。

ロープウェイでも行けますが、千百五十九段（いちいちご苦労さん）ある石段を登って家康公の眠る「神廟」へお参りすることをお勧めします。

長くなりましたが、家康公の町、私の生まれ育った静岡市に少しでも興味を持っていただき、お立ち寄りして頂ければ嬉しく思います。